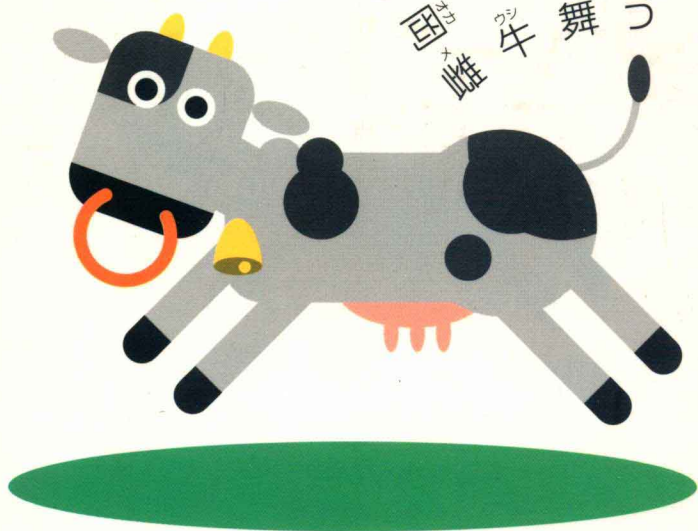


回文川柳 辞典

島村桂一 著

うめ かし 梅 香 る 照 の 国 雌 牛 舞 う



東京堂出版

柳川文曲辞

鳥村桂一 著

江苏工业学院图书馆

美し 梅 香 蔵 書 章

舞う 牛 雌 国

蔵 書

東京堂出版

著者略歴

東京日本橋の生まれ。昭和五十年二月より回文作りを始め、現在五千四百余作。回文の他、一句両吟、数字歌、数式歌、両義句などにも手を染めている。

著書『噫 宇宙親善』（三幸出版社）『句弄藻創録』（未来工房）回文資料提供『回文ことば遊び辞典』（東京堂出版）

回文川柳辞典

平成二〇年七月一〇日 初版印刷
平成二〇年七月三〇日 初版発行

著者 島村桂一
しまむら けい いち

発行者 大橋信夫

印刷所 (株)東京コピー

発行所 株式会社 東京堂出版

東京都千代田区神田錦町三十七番一〇〇番
電話〇三三三三三七四一 振替〇〇三〇三七七〇

製本 渡辺製本

はしがき

回文川柳とは何でしょうか。

回文とは、仮名にして上から読んでも下から読んでも同じに読める語、句、文を言います。例えば、「トマト」、「新聞紙^{シンブンシ}」、「ダンス^{ダンス}が済んだ」などです。

川柳とは、『広辞苑』第一版に依りますと、「前句付から独立した十七字の短詩。俳句とはその趣を異にし、切字・季などの制約なく、多くは口語を用い、人情・風俗または人生の弱点を衝き、世態の欠陥を諷し、簡潔・滑稽・機知・諷刺・奇警が特色」となっています。

従って、右の特色を備えた「川柳」が、「同時に上下同様に読める」と言った、二重の制約を持った句が、「回文川柳」と言うことになりま
す。

では、実際に出来上ったものはどうか。話は少し前に遡り
ますが、拙著『句弄藻創録』（句を弄び、藻〔詩歌・文章のあやあること〕を創り、かき記したもの。昭和五十七年、未来工房刊）よりそ
この所を引用してみます。

「回文川柳の欠点は、制限が強い為、どうしても完成度が不足しがち
になる事です。色色と工夫しても、精精〃川柳もどき〃に止まる場合
が多いように思われます。然し、それだけに又、作り甲斐がある、と
言えば言えるかも知れません」

弱気と言えば弱気です。しかし、普通の回文でもそう簡単には作れませんから、きちんと意味の通る句は尚更です。作者には申し訳ありませんが、防犯標語の「氣をつけよう甘い言葉と暗い道」や、交通標語を茶化した「赤信号みんなで渡れば怖くない」の様に、比較的容易くは作れないのが実状でしょう。これは一度でも回文を作ろうとなさった方にはお解り戴けると思います。

この様な訳で、良い句が出来上るのは、軽業師の口上を借りれば、「千番に一番の兼ね合い」と言うことになるかも知れませんが。振り仮名なしで、すなわち、回文とは知らずに読んで「川柳」と受け留められれば成功であると思います。

読者の方々にこの本を読んで戴き、なるほど「成程、これは川柳」と思ってい

ただける句がいくつかでもあれば、著書としてこれに過ぎる喜びはありません。

終りになりましたが、この『回文川柳辞典』は、東京堂出版の山下鉄郎氏のお勧めに依り成りました。山下氏のお勧め、励ましに深甚なる感謝の意を表します。誠に有難うございました。

平成十年五月

島村桂一

● 目 次 ●

はしがき — 1

凡例 — 8

1 悪事・犯罪 — 10

2 嘘 — 21

3 老・死 — 25

4 官界・汚職 — 33

5 感情・態度 — 44

6 教育・学校 — 59

7 経済 — 63

8	芸術・趣味・嗜好	73
9	恋	80
10	娯楽・賭 ^か け事	84
11	酒	89
12	事件・事故	102
13	勤め・仕事・会社	108
14	女性・美容・ファッション	119
15	心象	125
16	人生	135
17	スポーツ	148

25	24	23	22	21	20	19	18
その他	世の中・社会	病気・怪我	動植物	男女の縁 ^{えにし}	政治	生活・家庭	性格・人柄・様子
225	212	206	202	184	178	161	157

凡例

★『回文川柳辞典』は、著者が作った回文川柳六百七句をもつて構成している。

★内容は大きな項目で分類している。但し、小項目でも句数の多いものは独立させた。「酒」が「芸術・趣味・嗜好」より、「恋」が「男女の縁」より、また「老い死」が「人生」よりそれぞれ別れているのは、その例である。

★項目は五十音順で分類している。但し、どの項目にも入らないと見なされる句を集め、「その他」として一括したものは、最後に配置した。

★回文の仮名遣いは、二種類に分けられる。

一つは、現代仮名遣いの句である。この型は、清音・濁音の違いを区別する。即ち、上から「カ」と読めば、下からも「カ」と読み、「ガ」とはならない。また、上が「ガ」なら、下が「カ」とならないことは同様である。一つは、歴史的仮名遣いである。こちらの型は、清音・濁音の違いを許用する。

即ち、上から「カ」と読んだものを、下から「ガ」と読んでもよい。逆の場合も同様である。尚、一句の中に両仮名遣いが混在することはない。

★振り仮名は、一種の発音記号と見なす立場を取る。例えば、「オ」、「ヲ」の違いは「オ」で、「ズ」、「ヅ」の違いは「ズ」で表記する。但し、上下どちらも「ヲ」となる場合は「ヲ」を用いている。

★句は、僅か十七文字である。その為、現代、歴史的どちらの仮名遣いとも取れる句が生じる。その際、便法として、歴史的仮名遣いと見なし、清・濁音の違いを許用した句が七句ある。

1

悪事・犯罪

隙スキ有アと読ルんだ油ト断ヨよ盗ンる空ダ巢ユ
ス
タ
ン
ヨ
ト
ル
ア
キ
ス

ググッツバイバよイ立ヨつタ隙ツ掏スキ摸スつツたタ良ヨいイババッツググ

冷徹^{レイテツ}さ解^サく事件^{トク}麻薬^{ヤマ}と警察^{ヤク}手入^{クト}れ^{トサツ}

実^ゲに咄^{ニトツ}嗟^サ機敏^{キビン}万引^{マンビキ}颯^{サツ}と逃^トげ^{ニゲ}

下^サげ^ゲに^ニ行^{イク}くも^モつ^ツ焼^ヤ奴^{キヤツ}も^モ食^クい^イ逃^ニげ^ゲさ^サ

品シナで黒デ立クロつ時タ盗ツつたト録キでツなしタ
シ

今朝ケ女サ痴オン漢ナ引チ火カン値イン難カをチ避ナンけオ
ケ

天国テンか麻ゴク葉カ吸ヤひク好スくヒやス斯クくヤ混カんクでコン
デ

つと秘密洩らし首領も罪一つ

偶然や隙あり空巢や又また

手がやる苦乗り過ぎ掬摸の来るやがて

苦ニガイい水ミツ飲ノんだ件タンの罪ツミ如何イカニに

言イい分ブンさ盗サった後ゴ立タつと三分ツトサン言ブイい

覚カク悟ゴ疎ウトまし刻シト厭キアき年キト増シマ投トウ獄ゴクか